

地域	団体名
置賜	早坂山あるき隊
事業項目	やまがた緑環境税活用事業 ③森や自然とのふれあい活動
活動地	米沢市万世町 早坂山



団体紹介

米沢市東部の万世町を通る東北中央自動車道の八幡原IC南に2等三角点のある早坂山が対象。里山の自然の素晴らしさを共有したい、坂を歩いて健康増進も図ろうと令和1年に結成。当初は散策路がなく、道の開拓整備から活動を始めた。多数の地権者を探して理解を得ることから始め、2019(令1)年には山の西側、2020(令2)年に東側を整備。地名標識や分岐点の方向標識を設置。

令和5年度は冬季にこれまでになく松の倒木、太枝落ちが発生し処理作業が増えた。倒木が多過ぎて整備未着手だった西尾根続きの清水山への尾根道を整備できた。万世小6年生2クラス全員を山頂まで案内し、自然学習に協力できた。

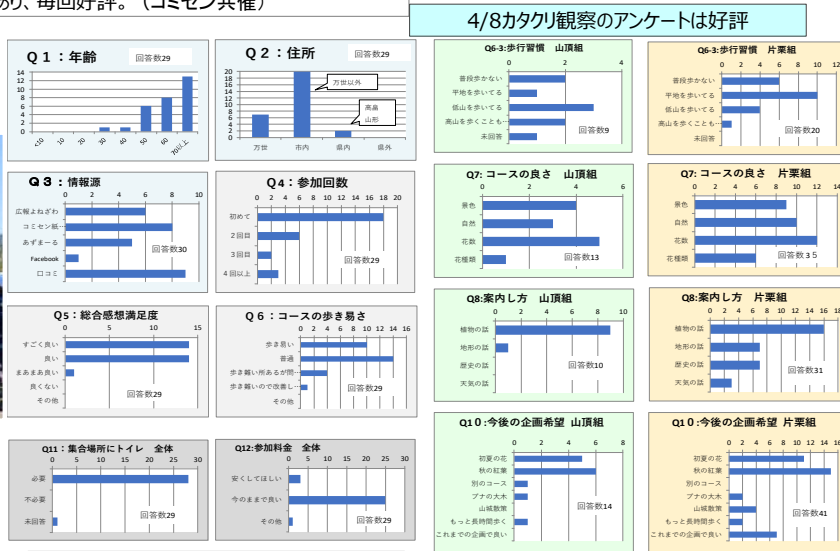
令和3年に森づくり活動の助成事業を開始。早坂山あるき隊のメンバーは13人。年2回のハイキングを万世コミュニティセンターと共催。地権者がいる山を活用する特殊な活動。

熊により破損が発生する看板を鉄板、鉄杭、ラミネート表示に変更したものは耐久性は良くなったが、鉄棒の杭はのしかかりで曲げられるので、新設分は角パイプに変更。

活動内容

自然観察会	一般	スタッフ	広報
4/8 カタクリ観察	29	5	-
5/1 万世小6遠足	48+16	(7)+4	幟 NCVTV
5/21 初夏の山	10	5	幟 山形新聞
11/5 紅葉ハイキング	25	8	
11/? 巨木調査			
計	64	18	

昨年より2週間早く開催。雪で太枝が下がったハルニレの花を運よく観察できた。尾根のカタクリ満開を観察し、山頂へ登り展望やツノハシバミの花を見つけた。念願の子供たちを案内。自然の不思議さ多様性、かぶれるツツルシ、郷土の眺めを教えた。大人数のため中学生やPTAにサポートをお願いした。当日は他の学年のサポートも必要で、コアスタッフは4人のみで対応。山頂に携帯トイレ+テントを準備した。季節の花や巨木を紹介する北尾根ルートで登り、新たな魅力を紹介できた。カンボク、サワフタギ、ヤブデマリ、ミヤマナルコユリ、山つつじなど。下山は1班は東回りを周回、2班の鷲城班はブナ、三又のナラを見学。11月上旬の紅葉と芋煮の魅力もあり、毎回好評。(コミセン共催)



山道整備：草刈、倒木処理

日	内容	スタッフ+委託
4/1	倒木処理	1
4/1	倒木処理	(1)
4/2	整備(泥濘道の溝掘)	5
4/23	枯葉枝掃除 補助ロープ設置(25m)	3
4/25	枯木赤布表示	1
4/28	頂上急坂ロープ張50m	1
7/8	草刈	4
8/19	倒木処理	6+(2)
9/2	倒木処理	3+(1)
9/3	倒木処理	2+(1)
9/9	倒木処理/草刈	2+(1)
9/10	倒木処理	3+(1)
9/16	倒木処理	3+(1)
9/23	草刈	4+(1)
11/7	草刈	

5/1の遠足が70人の大勢の予定で、迅速安全に移動できるよう、4月は道整備を丁寧に徹底した。この冬の倒木は東側ルートで松折れが目立った。

夏の気温が高く、残暑も続いて草の繁茂が旺盛で秋の草刈りを2回実施。

倒木処理数は91本、立ち枯木に蔓が絡んでいて緊急の危険がない数本は、蔓が枯れる来年以後の処理に先送り。大木の松の立枯木がコナラの大木にもたれてる箇所は、上部で枝絡みがあり処理保留。処理後の10月下旬確認で新たな倒木が2か所発生。危険性は軽微のため処理は来期とする。山全体で檜、杉は更新時期に来てるため、次々と倒木が発生する状況にある。

巨木調査

環境省の巨木認定できそうな大木が十本余りあり、大きさを測って登録しようと調査を始めた。



	主幹回りcm	合計幹回りcm	
巨樹認定条件	200以上	300以上	
1・ブナの守	337	337	巨樹宣言!
2・三又の檜	227	507	巨樹宣言!
3・立沢のサイカチ	471	641	巨樹宣言! 全国上位クラス

早坂山には巨樹が多い! 調査で郷土の誇りが増える!

参考情報：その他機関による取組

- 4/27 米沢市の公園担当より萬歳の松公園に仮設トイレ設置 (毎年5~11月に設置)
- 8/22 米沢警察署山岳救助隊による救難訓練。
- 2023年末~ 東北電力関係の西側の送電線下および電波反射板周囲の高木が伐採予定。

YAMAPでの山行記録公開数	年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2022		4	7	3	2	3	2	5	11	5
2023		19	14	2	2	1	1	4		

春・秋の訪問者が多い

活動を行っての感想

- ◇当グループでの山道整備の処理内容を地権者に伝え活動を共有できる機会を作りたい。→**地区の文化祭に活動報告ポスターを展示して広報とする。**
- ◆大勢参加時には細道で列が伸びるので講師の説明が全く届かない。拡声器で声は聞こえても説明物が見えない。説明内容の記録も困難で今後の課題。有効な方法機材を紹介して欲しい。
- ◆クマ被害対策標識として金属製は効果ありだが、細い丸棒はのしかかれて曲がるので、重くても鉄パイプ製の杭が必要とわかった。
- ◆R5年に小学6年の校外学習が実現した、サポートとして中学生も参加して貰い、郷土の山を案内することができたのは、喜ばしい成果となった。
- ◇倒木処理の大木のかかり木については処理保留としたが、傾きが増えた時点で改めて処理を検討する方針。
- 雪が消え、葉が広がる前の4月こそ各種作業や観察会をする適期であるのに、助成金を使う企画が4月に行えないのは、非常にもったいない。→**4月に行う企画へ適用できるルール見直しを願いたい。当初申請にあれば事後承認など。**
- 森づくり活動を行うボランティア会員に謝礼を出せない予算制約は活動が活発にならない。無償ボランティアでは若い人が来ないし継続性が難しく、動機付けとなる礼を出したい。→**緑環境税活用のルールの見直しを希望。**